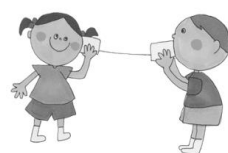


いと 系でんわ



やくそく ～約束～

春の日の午後、銀色に輝く飛行物体がどこからともな現れて、静かに野原に着陸した。ドアから3人の宇宙人が出てきた。野原で遊んでいた子どもは、

「あっ！だれか出てきたよ」「行ってみよう」と言い、子どもたちは駆け寄り、あどけない声で「ねえ、それに乗ってどこから来たの」と呼びかけた。

しばらくして、宇宙人の一人が「われわれは、遠い星から来たんだよ」と答えた。

「何しに来たの、どこに行くの」と恐る恐る、口々に聞いた。

「別の星に調査に行く途中なのだが、この星を見かけて、ちょっと降りてみよう。ゆっくりはできないが、標本にする植物を少し集めて行こうと思ってね」と言った。

「じゃあ、ぼくたちが手伝ってあげる」と言い、野原の中にちらばった。

しばらくして、「ほら、こんなに集めてきたよ」と、お花を渡すと、

「ありがとう。おかげで早く仕事がすんだよ。お礼になにをあげようか」と言い、子どもたちはひそひそと相談し合った。

「おじちゃんたちは、どんなことができるの」と尋ねると、

「われわれは文明がここよりずっと進んでいるから、大抵のことはできるだろう。何かして欲しいことでもあるのなら、言ってごらん」と言った。

「それならね。大人たちのやり方を、改めさせて欲しいな。大人たちに、嘘をつかせないようにすることなんかもできる…」と行った。

「ああ、できないこともないよ。だが、われわれには急ぎの仕事がある。帰りに寄って、やってあげるから、待っていておくれ。約束はきっと果たすよ」と答えた。

「うん。きっと来てね。待っているよ」と言い、飛行物体は上昇し飛び去った。

宇宙人は、「気持ちのいい連中でしたね」と同僚に言い、



「さあ、急ごう。そして、約束を果たしてやろう」と言って、目的地をめざし、速度を上げた。

帰路。彼らは再び約束の星である地球に降りた。

「さて、あの連中はどうだろう。君たち、探して来てくれないか」と一人が残り、二人は約束の相手たちを探すために出て行った。そして、戻った。

「遅かったじゃないか」

「だいぶ成長していて、見つけるのに手間どってしまっただね」

「それで見つかったのか、約束の相手たちは？」

「見つけはしましたが、どうも変ですね、この星の連中は」

「いったい、どうだったんだ？」

「すっかり（約束のことを）忘れているのです。そこで、こっちから言いだしてみたのですが、太ったお腹をなでながら、だれもがこんな返事でしたよ。『ああ、そんなこともあったかな、だが、そんな約束はなかったことにして、今更よけいなことはしないでくれ』とね」

著：星新一



今年、中2になるみんなは、野原で遊んでいた子どもたちのように、学校の先生やまわりの大人のやり方、大人は嘘をつくと感じることもある時期です。いわゆる反抗期や思春期と呼ばれる時期です。そのため、1年生の時は、特に何も感じていなかった学校のルール（校則）や保護者や、まわり大人が決めたことに納得がいけない時もあるでしょう。そんな時、「みんな、やっているのに・・・」「私だけではないのに・・・」「1年生の時はよかったのに・・・」「大人はやっているのに・・・」「絶対にこんな大人になりたいくない・・・」と言いたくなるかもしれません。

もし、大人になった自分の前に、再び宇宙人が現れたら、中学校の今と同じように「大人のやり方を改めて欲しい」と言いますか。そんなことは、「大人になってみないとわからない」と感じているかもしれませんね。

保護者の皆様へ

いつも本校の教育活動にご理解とご協力を頂きありがとうございます。今年も昨年に続き、部活動停止などで制限の多いGWとなり、心身ともにリフレッシュが出来づかったと思います。そのような中、2年生は5月7日（金）から新しい座席や班となり、明日からは中間テスト1週間前になります。予定をしていた家庭訪問もないまま、新年度が始まってから1か月が経ちました。お子様の学校や家庭の様子のお話が来ていないので、気になるようなことがありましたら、お気軽に担任までご連絡を下さい。